■コースター様_パンフレット(A3／横420mm×縦297mm)_0910

想人 OMOIBITO 生徒インタビュー

当時と今の事、教えてもらいました。

04
interview

今まで震災の様子が届かなかった人たちへ
伝えるきっかけになってほしい。

渡邊 快さん

震災当時の経験

震災当時は小学1年生でした。地震が来たのは集団下校中、先生や友達と分かれる家の近くの交差点についたくらいの時でした。壁によりかかっていた友達が危ないから離れるように言われたり、その揺れで停まっていた無人の車が動いて先生や大人の方たちが車を押し戻したりしていた光景は今も覚えています。その後母が迎えに来て、避難先の公園へ向かいました。そこには町の人がたくさんいて、みんな家族に連絡を取ろうと公衆電話に並んだり携帯電話から連絡を取ろうとしたりしていましたが、なかなかつながらない様子でした。私は友達と一緒に大人の方たちからもらった毛布にくるまってその様子を見ていました。いわき市はあまり雪は降らないのですが、当時は珍しく雪が降っていて寒かったので、地震と相まってとても不気味に感じたのを覚えています。震災後、しばらくはいわき市の自宅で生活をしていました。原子力発電所から30km以上離れていて避難が強制でなかったこと、家族でお店を経営していたのですぐには家から離れられなかったことが理由です。県外に避難したのは、いわき市でも放射線の話題が出るようになった4月か5月、親の友人を頼って東京と札幌に2週間ほど滞在しました。その間学校は休校していて、再会したのは9月のことです。久しぶりに登校した時は、2回目の入学式を迎えたような新鮮な気持ちでした。学校の友達とも震災以来の再会で、とても嬉しかったです。クラスメイトには、双葉郡から避難してきた人が新しく増えました。震災前と環境は少し変わりましたが、問題なく学校生活を過ごしていたと思います。

学校でやっていること

今学校で一番打ちこんでいるのは探究活動です。Minecraftで学校や原子力発電所を再現しています。このテーマを選んだきっかけは被災地を巡ったバスツアーでした。建物が壊されて更地になっていたり、新しくなった建物があったりと、震災の跡がなくなった光景を見ました。その景色を見て、整備されて新たに人が住むようになれば津波の記憶が風化するかもしれない、震災の被害を残していかなければならない、と思いこのテーマを選びました。震災の様子を残す活動は他の人たちも取り組んでいますが、Minecraftは新しい切り口だと思っています。ゲームなので子どもたちも触れやすいと思いますし、今まで届かなかった人たちへ伝わるきっかけにもなってほしいです。しかしとても大がかりな活動のため、在学中の完成は難しいです。後輩たちへプロジェクトを引き継いで、卒業後も何らかの形で関わりながら完成を目指します。

※Minecraft……土や原木、水や鉱石などのさまざまな素材のブロックで構成されている世界で、加工してものを作ったり建築物を作ったりすることができるビデオゲーム。

OMOIBITO 04

気になる事を聞いてみました！

Q1 ふたば未来学園に入った理由は何ですか？

兄がふたば未来学園に通っており、研修や授業の内容を聞いていて魅力を感じていました。実は第一志望ではなかったのですが、今はこの学校に来て良かったと思っています。

Q2 震災後の生活で困ったことや印象に残ったことはありますか？

家のガスと水道が止まっていて、お皿にラップをして洗い物が出ないようにしていたことは覚えています。でも当時はその状況を理解していなかったので、どうしてラップをするのか不思議に思っていました。覚えていないことも多いです。

Q3 震災の様子を残すのにMinecraftを選んだ理由はなんですか？

最初は、せっかくやるなら自分が取り組んでいて面白いやり方がいいと思ったからでした。実際に取り組んでみると自由度も高く、今までになかったやり方なので、Minecraftを選んでよかったと思います。

Q4 将来の目標はなんですか？

今は大学進学することが目標です。やりたいことが明確に決まっているわけではありませんが、自分が生まれ育った町を出て、視野を広げたいと思っています。

Q5 将来、いわき市に戻って仕事をしたいと考えていますか？

家業を兄が継ぐということもあり、大学を卒業してからもいわき市に戻って仕事をするつもりはありません。ただ、家の仕事を助ける意味でも、家業に関わる仕事には就きたいと思っています。